

血液型性格診断の信用度と没入傾向、批判的思考態度の関連性に関する研究

1250467 田岡陽奈

指導教員 日道俊之

研究背景

血液型性格診断は、科学根拠がないが多くの人が信じている現象である。血液型性格診断を信じる要因に自身の持つ偏った情報の使用があり、その情報に対する姿勢が否定・肯定的かにより血液型性格診断への信用度に影響を及ぼすと考えた。否定的な姿勢をみせると予想できる批判的思考態度は、先行研究において不思議現象の過信を防ぐ効果がみられている。また、肯定的と予想できる物語への没入傾向は登場人物への共感・イメージなどが喚起されることが分かっている。しかし、それぞれが血液型性格診断の信用度とどのように関連しているか未だ検討されていない。

研究目的

本研究は血液型性格診断への信用度と没入傾向、批判的思考態度の関連性を検証した。本研究では、血液型信用度と没入傾向は正の相関関係にある（仮説 1）、没入傾向と批判的思考態度は負の相関関係にある（仮説 2）、批判的思考態度と血液型信用度は負の相関関係にある（仮説 3）という 3 つの仮説を検証した。

研究方法

Qualtrics でウェブ調査を行った。回答者にランダム順番で 2 つの心理尺度（批判的思考態度短縮版・LRQ-J）と血液型性格診断を信じる程度に関する質問すべてに回答してもらった。その後、科学リテラシーの知識問題、参加者属性を測定した。

分析結果

相関分析の結果、血液型性格診断の信用度について LRQ-J の「共感・イメージ」と正の相関がみられたが、批判得点との間に関連はみられなかった。また、没入傾向と批判得点において正の相関がみられた。

考察・結論

仮説 2 と対照的に批判的思考態度と没入傾向の相関分析について正の相関関係がみられ、これらの概念は対立しておらずそれぞれが本を読む行為と関係すると示唆された。血液型性格診断への信用度については、LRQ-J「共感・イメージ」のみ正の相関がみられ、仮説 1 が一部支持された。この結果は物語に共感しやすい人は血液型性格診断を信じやすい傾向にあることを示すものの、血液型性格診断の信用度の測定方法の妥当性に限界があるため、これらの相関関係については慎重に判断すべきである。